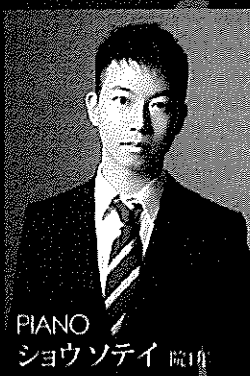




洗足学園音楽大学 大学院コンサートシリーズ 大学院コンチェルト研究発表会(ピアノ)

ピアノコンチェルトの夕べ

〈第一夜〉



PIANO
ショウソテイ 院1年



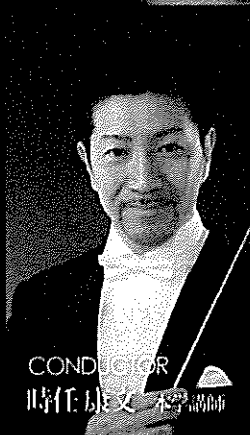
PIANO
高橋 結衣 院2年



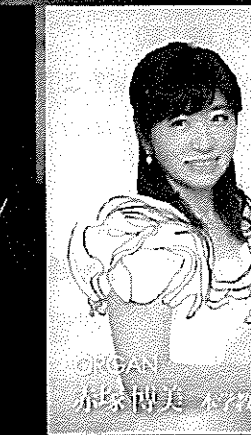
PIANO
亀井 梨菜 院2年



PIANO
高城 美希 院2年



CONDUCTOR
時任 康文 客席講師



ORGAN
小塚 博美 本学2年

WA.モーツァルト/
ピアノ協奏曲 第21番ハ長調 KV.467 より 第1楽章

WA.モーツァルト/
ピアノ協奏曲 第9番「ジュノム」変ホ長調 KV.271

F.ブーランク/ピアノ協奏曲 第1楽章

R.シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

2021.3/8(月)

開演 | 18:30 開場 | 18:00

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

== PROGRAM ==

指揮 時任 康文

電子オルガン 赤塚 博美

大熊 美子 (賛助) 内海 菜々美 (学部2年) Chen Yujin (院2年) Wang Wenhao (院1年)

Zhang Leiqian (院2年) Wang Qingzi (院1年) Deng Ruoheng (院1年)

打楽器 島津 翠 (院2年)

JIANG SUTING [ショウ ソテイ] (院1年)

W.A.モーツァルト／ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 KV.467 より第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.21 C-dur KV.467 1.Satz

丸橋 みなみ (院2年)

W.A.モーツァルト／ピアノ協奏曲 第9番「ジュノム」変ホ長調 KV.271

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.9 "Jeunehomme" Es-dur KV.271

～ 休憩 ～

隈元 沙綾 (院2年)

F.プーランク／ピアノ協奏曲 第1楽章

Francis Poulenc (1899-1963) // Concerto pour piano piano et orchestre cis-moll FP.146 1er Mouv.

高城 美希 (院1年)

R.シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

Robert Schumann (1810-1856) // Konzert für Klavier und Orchester a-moll Op.54

■ 曲目解説

■ W.A.モーツァルト／ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 KV.467 より第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.21 C-dur KV.467 1.Satz

電子オルガン：Chen Yujin (院2年) Wang Wenhao (院1年) 赤塚 博美

《ピアノ協奏曲第21番》は、1785年に生まれた3作の協奏曲のうちの第2作。第1作《ピアノ協奏曲第20番》が完成したわずか1ヵ月後、自分が独奏を担当する予約演奏会のために書かれ、初演された。共に旧来の協奏曲の域を脱した「交響的統一性」としての内容を備え、充実した編成で巧妙なオーケストレーションを展開するなど、両曲に共通する面もいくつかあるが、しかしこの《第21番》から受ける印象は、《第20番》とはかなり異なっている。半ば行進曲風な雰囲気、沸き立つようなブッフの精神がみなぎるフィナーレ、間に挟まれて、非常に美しいカンタービレに徹するアンダンテ。そればかりでなく、曲の重心を再び独奏者の演奏技巧に移動させるなど、せつなく脱け出した社交的機会音楽の領域にまた後退したかにも感じられる。二短調の息づまるような暗い激情から解放され、ハ長調という清朗な調性を選んだモーツァルトはここで、自分の楽器を存分に遠慮なく鳴らしてみたかったのかもしれない。

第1楽章、アレグロ、ハ長調、4/4拍子、協奏的ソナタ形式。

JIANG SUTING [ショウ ソテイ] (院1年)

■ W.A.モーツァルト／ピアノ協奏曲 第9番「ジュノム」変ホ長調 KV.271

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.9 "Jeunehomme" Es-dur KV.271

電子オルガン：Zhang Leiqian (院2年) Wang Qingzi (院1年) 赤塚 博美

1777年1月ザルツブルクにて、パリの女流クラヴィエーア奏者ジュノームと彼自身が演奏するために書かれた作品。ザルツブルク時代を締めくくるにふさわしい作品であり、モーツァルトの人生の一つの幕切れと、次の時代の幕開けを同時に示す作品である。

第一楽章：アレグロ、変ホ長調、4/4拍子。協奏的ソナタ形式。冒頭からすぐに型破りにピアノが登場する。オーケストラとピアノ・ソロの掛け合いで主題が提示されるという、大変めずらしい例である。

第二楽章：アンダンティーノ、ハ短調、3/4拍子。「ため息の音型」がふんだんに散りばめられた短調。モーツァルトのピアノ協奏曲の中間楽章では初めての短調である。

第三楽章：ロンドープレスト、変ホ長調、2/2拍子。ロンド形式。第二楽章の落ち込んだ気分を、一気にロンドの愉快的な気分に進む。モーツァルトのもうひとつの試みとして、中間部にメヌエットが挿入されている。

丸橋 みなみ (院2年)

～ 休憩 ～

■ F.プーランク／ピアノ協奏曲 第1楽章

Francis Poulenc (1899-1963) // Concerto pour piano piano et orchestre cis-moll FP.146 1er Mouv.

電子オルガン：内海 菜々美 (学部2年) 大熊 美子 (賛助) 赤塚 博美

フランシス・プーランクはフランスの作曲家であり、裕福な家庭に生まれる。1920年代に「フランス6人組」の作曲家として台頭し、パリを拠点に活躍した。新古典主義音楽の傾向をもち、フランス古典音楽と、前衛的な音楽の二面性を持つ。

この《ピアノ協奏曲》FP.146は、1949年にボストン交響楽団の指揮者であるシャルル・ミュンシュから委嘱・作曲された作品である。第1楽章アレグレットは、前置きもなしに、ピアノのメロディックなモチーフが歌い上げる。その後ラヴェル風のアルペジオに移り変わったかと思えば、次にロンドのモチーフが続く。このように、「主題」をもとに展開することなく、いくつかの「旋律」を様々な調で展開していく書法は、プーランクの特徴の1つである。この協奏曲は、ピアノという楽器がヴィルトゥオジテ(超絶技巧)を強調することなく、オーケストラ個々のソロも魅力的に旋律を奏でるなど、お互いが対話するような構成になっている。

隈元 沙綾 (院2年)

■ R.シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

Robert Schumann (1810-1856) // Konzert für Klavier und Orchester a-moll Op.54

電子オルガン：内海 菜々美 (学部2年) Deng Ruoheng (院1年) 赤塚 博美

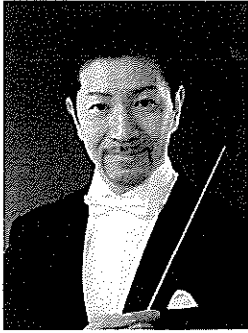
シューマンの遺した唯一のピアノ協奏曲。当時の主流であった、ヴィルトゥオソ性を最優先させた協奏曲とは少し異なり、時にはピアノがオーケストラの伴奏にまわったり、同じメロディの掛け合いをしたりと、まるでピアノがオーケストラの楽器の1つかのように書かれている。

第1楽章 Allegro affettuoso ドラマチックな序奏が始まるとすぐに、クララの名を縫い込んだメランコリックな第1主題がオーボエからピアノに引き継がれる。展開部は思いがけない変イ長調で、幻想的な雰囲気包まれる。再現部はドラマチックに高揚した後、ピアノのカデンツァを挟んで華やかに終わる。この楽章はもともと独立した楽曲として構想されたものである。

第2楽章 Intermezzo; Andante grazioso 軽く愛らしい主題がピアノとオーケストラの掛け合いで進んでいく。中間部は一転してチェロの息の長い穏やかなメロディが現れる。スケルツォ的な性格を持つ。

第3楽章 Finale; Allegro vivace 2楽章から休みなく続けられる。煌びやかなロンドで、ピアノとオーケストラが絡み合いながらクライマックスへと続いていく。

高城 美希 (院1年)



時任 康文 | 指揮

武蔵野音楽大学器楽科卒業後、東京音楽大学指揮科に学ぶ。指揮法を紙谷一衛、汐澤安彦両氏に師事。在学中より二期会、日生劇場を中心にオペラの音楽スタッフや合唱指揮者として参加。小澤征爾氏、若杉弘氏、秋山和慶氏等のアシスタントを務めた。1996年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。ネッロ・サンティ氏に師事。現在はオペラを中心に、オーケストラや吹奏楽、ミュージカルなどあらゆるジャンルに対応し指揮活動を行っている。

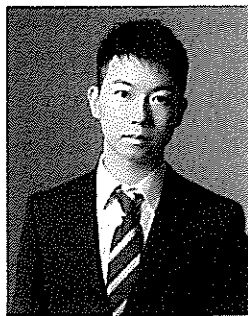
洗足学園音楽大学講師、武蔵野音楽大学講師。



赤塚 博美 | 電子オルガン

インターナショナルエレクトーンコンクール入賞、及び川上特別賞受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノスカラ座のG・ピサーニ氏に学び数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。繊細な音楽のニュアンスまでも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。2018年4月には、Naxos JapanよりCD“Message for You”をリリース。

現在洗足学園音楽大学・大学院・電子オルガンコース統括教授。



JIANG SUTING [ショウ ソテイ] (院1年) | ピアノ

中国浙江出身。7歳よりピアノを始める。これまでにピアノを宇野浩二、呂碩の各氏に師事。2018年浙江藝術学院を卒業した後、2018年9月日本に留学。日本語学校で1年半勉強した後、2020年洗足学園音楽大学大学院に入学。現在ピアノを吉武雅子、齊藤香織の各氏に師事。



丸橋 みなみ (院2年) | ピアノ

神奈川県出身。日本音楽高等学校ピアノコース特待生を経て、洗足学園音楽大学ピアノコースを卒業。これまでにピアノを大西望、久保正子、山内のり子の各氏に師事。ジャズピアノを瀬田創太、チェンパロを上蘭未佳、フィンガートレーニングを恩田明香の各氏に師事。



隈元 沙綾 (院2年) | ピアノ

東京都出身

洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。

G.ナードル、L.Fベレス各氏のレッスンを受ける。

室内楽を池上政人氏に、ジャズピアノを片倉真由子氏に、現在クラシックピアノを飯野明日香氏に師事。



高城 美希 (院1年) | ピアノ

福岡県出身。4歳よりヤマハ音楽教室で学ぶ。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。2017年音の夢ピアノコンクール第1位、第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会入賞。ラ・フォル・ジュルネ TOKYO2018にて丸の内エリアコンサートに出演。

2019年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。